

土曜例会 (17 December 2016)

新たに合唱を追加 若者の加入を話し合う

年の瀬を迎え、今年も恒例の Year-end Party が福祉文化会館で行われました。会員の約半数、40 人ほどが出席し、ランチの後、自己紹介、英語の暗唱会、ビンゴゲームを行い、さらに、IIN メンバーの若返り策などについても意見を交換しました。今回初めて混声合唱団が“結成”され、日本の名歌とそれらを英訳した歌を披露して楽しさを加えました。自己紹介では、いつもながらユーモアにあふれ、共感できるハナシが多

く、「元気をもらった」という人が多かったようです。

N 副委員長＝写真左＝から来年のスケジュール説明のあと、「IIN っていいなあ！と楽しんでいただきたい」と開会の挨拶。寿司で腹ごしらえをしたあと、自己紹介に移りました。

自己紹介

会員同士がより、知り合える自己紹介では、自分の加齢と介護など家族の問題を抱えながらも、IIN の活動を楽しみながら盛り上げていこ

うとする熱意が感じられました。スピーチの一部を拾うとー

「私、英語は下手。歌えません、踊れません。あまり面白くない人種ですが、見学したら何故か、入会してしまいました。よろしく」

「ミネアポリスを訪問し、人の温かさ、交流のすばらしさを体験しました。いつまでもこの会を続けていきたいと思っています」

「認知症の母の介護が大変。健康体操、散歩、テニス、フラダンスなどで足を鍛えています。ここでは頭を鍛えたい」

「母の介護のため、今回も参加できるかどうか危なかったのですが、思い切って参加してよかった。また、元気が湧いてきました」

「(もうトシなので) 来年はモノを捨てることに専念しようと思っています」。

「交流会などでの着物の着付けを担当しています。後継者を育てて欲しい、と要請されています。ご協力を！」



「毎日、2万歩以上歩くように努めています。京都や大阪の名所で外国人にあれこれ尋ねられたら、ちゃんと説明できるようになりたい」

「home visit で外国からの学生を受け入れています。若い彼らが知りたいことと、こちらが知らせたいことがマッチしないこともあります。でも、楽しいです」

1人30秒の制限付きでしたが、みなさん、ユーモアをまじえて面白く語っていました。

暗唱大会

英語の暗唱大会は3人が挑戦。トシは重ねても頭は若く、立派にスピーチをこなしました＝写真右。

暗唱された文章は、戦火の中のカンボジアで生まれ、子供のころから自分も地雷を埋めながら戦ってきた若者が、戦後、地雷博物館をつくってその恐ろしさと平和の大切さを訴えた文章。



合唱



初めての合唱会

今回初めて合唱が加えられ、会を盛り上げました。参加希望者を募集、約10人が例会などの後に練習を重ねてきただけあって、シワは増えても声にはハリがあり、なかなかのハーモニー。曲は日本人になじみ深い

名曲「さくら」、「ふるさと」、「花」の3曲で、日本語だけでなく、英訳された歌詞でも歌い盛大な拍手を受けました。

ビンゴ

この後、休憩をはさんでビンゴゲーム。ビンゴになった人から順に、皆が持ち寄った500円程度の



ビンゴになった人から順に好きな景品（右端）をゲット

プレゼントを選びました。なかには、ミネアポリスの女性からのプレゼントも。何度も茨木を訪問している方で、自宅に和風の庭を作り、その飛び石をデザイン化した小冊子。「飛び石を歩いて互いに行き来できる」という思いを込めたものです。また、オーストラリア原住民が木をくり抜いて作ったワインスタンド、小型の顕微鏡などもありました。

若者の参加を検討

ゲームの後、野坂副委員長から「IIN は長い歴史を持っているが会員が高齢化の傾向にある。5年後、10年後を見据えて長く発展を続けてゆくために、入会の垣根を低くしたい。そのため、ゲスト・スピーカーにも気軽に参加していただく方法や若い会員を増やす方法について検討していただきたい」と提案があり、グループごとにアイデアを出し合いました。

- ・学生の会費(現在は準会員で 1000 円)だが、これを無料にする
- ・市や市教委に広報の協力を求める
- ・outing などの楽しいイベントには大学、高校を通して参加を呼びかける

- ・大学、高校生らに IIN で英語のスピーチをする機会を提供する
- ・国際化が進む中で外国の事情を知ることがより、重要になる。彼らを招いて商社マンやそのOBらに語ってもらう
- ・我々が公民館や学校などに出向いて「出前ワークショップ」をする
- ・茨木には、「まちかどデイ・ハウス」というものがあるが、まちかど「カンバセーション・ハウス」をつくれな
- ・茨木市や国際親善都市協会の行事に、我々ももっと積極的に参加、協力する
- ・我々のホームページをよく見て欲しいーなど多くの提案がありました。

初参加の方の感想

Year-end Party に初参加だった方々から感想を寄せていただきました。それによると「自己紹介の内容がそれぞれ面白く、私のこれからの生き方に大変、参考になりました」(M.Tさん)

「とても楽しいひとりで、何度も大笑いしました。皆さんが元気で充実した毎日を過ごしておられる様子を知り、『私も頑張らなくては！』と元気づけられました」(A.Iさん)

「様々な世代の方のお話を聞いて、とても有意義だった」(M・Sさん)

「のんびり、ゆっくり何もせず、家で過ごすことが好きでしたが、今日のパーティで大いに刺激を受け、いろいろなことに挑戦しようという意欲が湧いてきました」(K・Yさん)。

また、「盛りだくさんのイベントをありがとう。準備が大変だったでしょう。司会者も長時間、見事でした」という声も。

「たとえ明日、世界が滅びるとも…」



会員の熱心な意見を受けて、最後にU副委員長が「ある言葉を思い出しました」と、次の名言を紹介しました。

「たとえ明日、世界が滅びるとも、私は今日、

リンゴの木を植える」(マルティン・ルターという言葉と伝えられる)というもの。その意図は、世界情勢の先行きが不透明になり、国際関係が悪化しようとも、我々は明日を信じて草の根の国際交流を続ける、という意気込みを示唆したものと受け止めました。

(T・H記)